

## 県営ラグビー場竣工に当り

埼玉県ラグビーフットボール協会  
副会長 森 喜雄



埼玉県営ラグビーフットボール場竣工を機に、記念誌を発刊する運びになりましたことは、大変喜ばしい限りであり、心よりお祝い申し上げます。

本県のラグビーが本格的に行われたのは戦後からで、ラグビー協会と言っても高校チームが中心で、他の部門には殆どチームがありませんでした。(昭和23・24年頃)その当時は、他の競技連盟や協会に比べると、チーム数も少なく協会の組織も内容も全く貧弱でした。高校のチーム力も、関東地区ではレベルが低く、ラグビーでは後進県でした。全国高校大会や国民体育大会等にも、なかなか出場することが出来ませんでしたし、たまたま出場出来たととしても、天皇杯得点には貢献することも出来ない程度でした。

県体育協会の種々の会合でも、末席をけがしているだけで、特に選手強化対策委員会などでは、秀れた成績を上げている協会や連盟は、胸を張って声高らかに現況報告するのに対して、弱体なラグビーは小さくなっているばかりで、肩身の狭い思いを散々に味わいました。本当に忍耐の場でもありました。

また一方、大会運営での会場等の問題では、他の競技団体の大部分が、それぞれ県営の専用グラウンドや体育館等を使用して行われているのが羨ましく、早く人並みになりたいと思っていました。そして、他県でも段々と県営のラグビー専用グラウンドを持つ所が多くなって行くのに、本県だけは取り残された感じでした。

昭和34年に行われた高校の関東大会では、各県持ち回りで、愈々本県がこれを引き受けることになりました。この大会は、二面の競技場を必要としましたが、当時は適当な会場がなく、その会場探しに奔走したり、役員が少ない為に運営も大変苦労したことが、今は懐かしく思い出されます。

我々ラグビー関係者は、狭く固いグラウンドばかりでなく、何とか県営のラグビー場を、或いは専用のグラウンドが欲しいものだと、常に念願しておりました。これを実現するためには、どんな方法

を進めたらよいものかと苦慮いたしました。ただ暗中模索の状態でした。

昭和42年、第22回国民体育大会が、本県で行われることになりました。前にも述べましたように、ラグビー協会は組織も小さく、ほんの一握りの役員で、果たして大会運営や競技成績の面で、立派にその成果があげられるかどうか、不安で一杯でした。また一方、これを機会に県営のラグビー場を作ってもらえる好機ではないかと、大いに期待しましたが、その考えは大変甘すぎました。

結局ラグビーフットボール競技は、熊谷市で会場を引き受けさせていただき、荒川の河川敷に芝を張った立派なグラウンドを、二面作っていただきました。また、熊谷市で全面的に援助して下さいましたので、当初の不安も次々に解消して、何とか無事に終了することができました。以後、本県主要の大会は、すべてここ熊谷市荒川ラグビー場で開催されてきました。そして、多くの名選手を生み出し、本県ラグビーの向上発展に尽くして参りました。本当に有り難いことだと思っております。

そして、埼玉国体以降、本県においても是非県営のラグビー場を持つと言う声が高まり、増田前協会長を始め協会役員を中心にその促進を計り、畑知事さんを始め関係方面の方々にラグビー場建設を陳情し、ご理解とご協力をお願いして来た訳であります。

こうして、県営ラグビー場建設が決定されるまでには、本県にラグビー協会が創設されてから、実に43年の歳月を要しましたし、本格的にこの問題に取り組んでから、約10年の年月を要したことになります。畑知事始め、地元熊谷市長さんや、前ラグビー協会会長も「是非西の花園、東の熊谷と言われる様な立派なグラウンドにしたい」と申されて、特に広さや、施設、設備に配慮をいただき、お陰で全国屈指の素晴らしいグラウンドを完成しました。

この間、特に高校チームは全国的にも、非常に

高いレベルになり、各種大会に好成績を上げる様になって参りました。中学ラグビーも、誕生してからまだ日が浅いものの、東日本大会や関東大会等でも優勝するなど、目覚ましい躍進振りには喜びに堪えません。また、個人的にも多くの有名選手を輩出し、大学及び社会人チームで活躍しております。

今後の埼玉ラグビーは、この素晴らしいグラウンドで鍛えられ磨きあげられることによって、更に数多くの優秀選手と、強力チームが生まれるであろうことを思うと、今から楽しい気持ちで一杯です。

なお、首都圏内にある本県で、これだけの充実したグラウンドを持ったことは、本県の大会は勿論のこと、国際大会や社会人、大学及び高校等の大試合、好試合が数多く行われることでありましよう。このことはラグビーをやる本県の小・中・高の児童・生徒にとっては、この上ないお手本であり刺激となることでしょう。そして、更にレベル

の向上に一層の拍車がかかるものと、期待し確信もしております。

一方、ラグビーファンの目を楽しませ、更に一般の方々の関心も、大いに高まることと思います。

終りに、こんな素晴らしいラグビー場が完成したことは、長年熱望していた我々ラグビー関係者にとって、これ以上の喜びはありません。これも偏に畑知事さんを始め、県関係者の皆様のご理解とご協力の賜であり、且つまた地元選出の県議会議員の方々の、並々ならぬご尽力のお陰であると、深く感謝いたしております。また、地元熊谷市の市長さんと、市民の皆様の温かいご理解とご援助があったればこそであり、ラグビー協会の前、並びに現協会長を中心とした協会役員皆様の一致団結のもとに、献身的な努力とお力添えによるものと深く感謝いたしております。

ラグビー場完成を契機に、本県ラグビーが今後益々向上と発展をいたします様期待してやみません。



第66回全国大会 熊谷工業高校の決勝戦にかけつけた応援団 関根副知事・荒井教育長・小林市長・増田協会長 等々